

東アジアの美術に関する資料学的研究 (①美01-08-3/5)

目 的

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

成 果

(1) 情報資料の収集のための調査

美術批評家・美術史家の大村西崖に関する資料調査（塩谷・吉田）。洋画家黒田清輝に関するフランス、ベルギーでの現地調査（田中）。

(2) 平成22年度に『日本絵画史年鑑資料集成（15世紀）』を刊行すべく、古美術展カタログ等に散在する情報を抽出して統合するための仮登録作業を継続して行っている。事業の発展性を考慮し、絵画に限らず15世紀の年紀を有するものすべてを登録することを旨としたため、今年度は約1,000件（うち絵画は約500件、ともに重複データをふくむ）の情報を集め、統合作業にとりかかった（綿田）。また『日本美術年鑑』所収の古美術文献データの校正作業を行った（皿井）。

(3) 研究会の開催

企画情報部研究会として、5月7日に「満谷国四郎デッサンに関する研究会」を角田拓朗氏（神奈川県立歴史博物館）・廣瀬就久氏（岡山県立美術館）を発表者、赤木里香子氏（岡山大学）、杉野文香氏（倉敷市立美術館）をコメンテーターとして開催、5月28日に「平安時代の彫刻史と建築史の学際的研究会」を富島義幸氏（滋賀県立大学）・皿井舞を発表者、山本勉氏（清泉女子大学）をコメンテーターとして開催した。またオープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと10月3・4日に開催した（内容については、68頁を参照）。

論文等掲載 2件

- ・綿田稔「自牧宗湛（下）」『美術研究』395 pp.20-56 08.8
- ・綿田稔「聚光院の成立時期についての一仮説—障壁画作期議論の前提として」『美術研究』396 pp.25-44 08.11

口頭発表 3件

- ・皿井舞「『国風文化論』再考のための試論」企画情報部研究会 08.5.28
- ・勝木言一郎「鬼子母神の源流をたずねる」企画情報部オープンレクチャー 08.10.3
- ・田中淳「写真のなかの芸術家たち—黒田清輝を中心に」企画情報部オープンレクチャー 08.10.4

研究組織

○塩谷純、勝木言一郎、山梨絵美子、田中淳、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕（以上、企画情報部）、中野照男（副所長）、相澤正彦、吉田千鶴子、三上豊、森下正昭（客員研究員）